

令和4・5年度佐賀県教育委員会委嘱
佐賀県研究指定校事業：教育課程

令和5年度鹿島市教育委員会委嘱
鹿島市教育研究大会

研究紀要

研究主題

自ら学びを切り拓く児童の育成

～アクティブに学び合う学習過程の工夫を通して～



令和5年10月26日（木）

鹿島市立能古見小学校

目次

○はじめに

巻頭

I	研究の概要	1
II	研究の実際	
1	授業づくりの工夫	7
2	指導の実際	10
	(1) 令和4年度の実践	
	(2) 令和5年度の実践	
3	専門部の取組	31
	(1) 学び部	
	(2) 学びの環境部	
III	研究のまとめ	41
	1 成果と課題	
	2 来年度に向けて	

○おわりに

○御指導いただいた先生方

○研究同人

I 研究の概要

1 研究主題

自ら学びを切り拓く児童の育成
～アクティブに学び合う学習過程の工夫を通して～

2 主題設定の理由

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、人工知能の発達により、社会構造や雇用環境は大きく変化しており、将来を予測することが困難な時代となっている。今後の社会を生きる子どもたちには、このように変化の激しい時代だからこそ、一人一人が持続可能な社会の担い手として、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

平成 29 年 3 月に告示された小学校学習指導要領解説算数編では、学校教育の役割を、

子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

としている。つまり、学校は、児童が新たな問題に出会ったときに、「どうすれば解決できるのか」と自分なりに考え実行したり、他者との協働により、解決策を導き出したりできるような児童の育成を目指していく必要がある。

また、中央教育審議会答申において、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、

ア「何を理解しているか、何ができるのか（生きて働く「知識・技能」の習得）
イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の三つの柱に整理されている。従来の「何を学ぶか」という学習内容に加え、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」の視点が新学習指導要領では重要となり、そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められている。つまり、日々の授業を通して、子ども達が学ぶ喜びや大切さを感じながら、自ら考え表現していくことや、対話を通して考えを深めていくような協働する力を養っていく必要がある。

本校児童の実態としては、学習状況調査の算数科の結果を見ると、県正答率とほぼ変わらない。「思考・判断・表現」の正答率も上昇した学年が多い。しかし、解答を分析する中で、「問題の意味を理解して情報を整理すること」や、「それを図化すること」を苦手としていること、児童間の学力差など、課題が見えた。また、授業で考えを共有し比較・検討をする場面で、一部の児童の考えや教師の発言が中心になってしまい、児童の主体的な学びへとつながらなかったことも課題として考えられる。これらの課題解決を図るため、図だけでも描くなど解決に向けて取り組む力をつけること、教師の出番を吟味し、児童が中心となって活動する場や時間の確保が必要だと考えた。児童がアクティブに学び合うことができるような学習過程の工夫をしていきたい。

そこで、昨年度までの研究内容を活かしながら、算数科の学習過程において、問題解決に向けて見通

しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫や、児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫、毎時間の授業を大切にすることで次につなぐまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫という点から授業改善を行えば、児童は、自ら学びを切り拓くことができると考えた。以上のことから、本研究主題を設定し、研究実践に取り組むことにした。

3 研究の目標

算数科において、自ら学びを切り拓く児童の育成のために、児童がアクティブに学び合う学習過程のあり方を明らかにする。

4 研究の仮説

児童がアクティブに学び合う学習過程の工夫を、以下のような点から行えば、児童は、自ら学びを切り拓くことができるだろう。

- (1) 問題解決に向けて見通しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫
- (2) 児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫
- (3) 毎時間の授業を大切にすることでまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫

5 研究の内容

- (1) 日々の授業実践

ア 問題解決に向けて見通しをもつことができる導入（ミッションタイム）の工夫

- ① 着目させたいこと、考えさせたいこと（数学的な見方・考え方）を明確にする。
- ② 児童が「問い」を生み出すような問題提示の工夫をする。
- ③ 思考の可視化（具体物、図、言葉、説明など）ができる工夫をする。

イ 児童が中心となり自由に学び合う展開（アタックタイム）の工夫

- ① 教師の出番を吟味し、児童が中心となって学び合う場や時間の確保をする。
- ② 児童の様子を見取り、思考の整理をする。

ウ 毎時間の授業を大切にすることでまとめ・振り返り（コンプリートタイム）の工夫

- ① 数学的な見方・考え方をキーワードとして整理した板書計画をし、児童の言葉でまとめる。
- ② 学習を振り返る時間の確保をする。

エ 支援を要する児童への手立ての工夫

オ ICTの効果的な活用

- (2) 日常の学習指導の工夫

ア ノート（図化）指導の工夫

イ 家庭学習の工夫

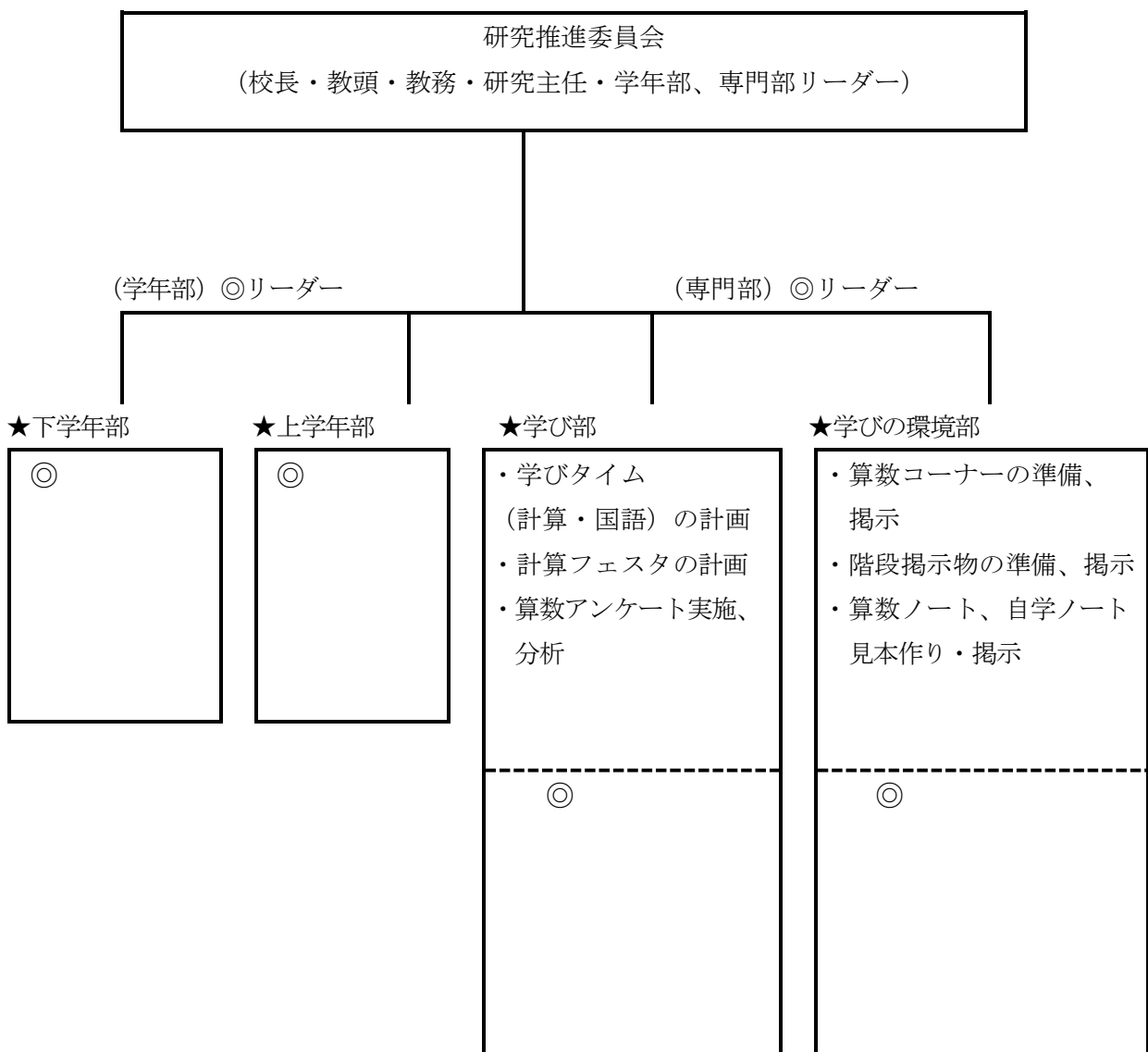
ウ 環境整備によるノートの内容の充実化

エ 基礎的基本的な内容の定着

6 研究の方法

- (1) 授業研究会や実践発表会
 - ・全学級が研究授業を（上・下で全研1つずつ・他はグループ研）行い、事前・事後の意見交流を行うことにより、有効な指導方法を探る。
 - ・佐賀県教育センター作成の「授業改善セット」を活用し、定期的に振り返る。
 - ・児童が、既習の知識・技能を活用できるための校内環境の整備をする。
- (2) 講師招聘及び研究発表会への参加などによる理論研究
- (3) 児童の実態把握
 - ・学習状況調査やNRT、アンケート等の結果分析により児童の実態を把握する。

7 研究の組織（令和5年度）



8 研修の経過(令和4年度)

月日	計画	月	計画
4/11 4/20 4/27	研究推進委員会 全体研究会（研究概要等） 専門部検討	10/12	学年部会（指導案検討）
5/27	事前研（4年）	11/9 11/30	理論研究 学力調査対策
6/3 6/15 6/29	研究授業（4年） 専門部会（計画） 全体研（統一事項）	12/7 12/14	研究紀要について 後期前半のふり返り 児童の実態把握（県学力調査）
7/6 7/13 7/27 7/28	指導案作成 前期前半のふり返り 専門部会（活動） 理論研究	1/11 1/25	研究紀要原稿作成 児童の実態把握（CRT）
8/31	事前研（3年）	2/1	今年度の研究のまとめ
9/7	研究授業（3年）	3/1	来年度に向けての話し合い

□ 〈講師〉 西部教育事務所 森 泰樹先生

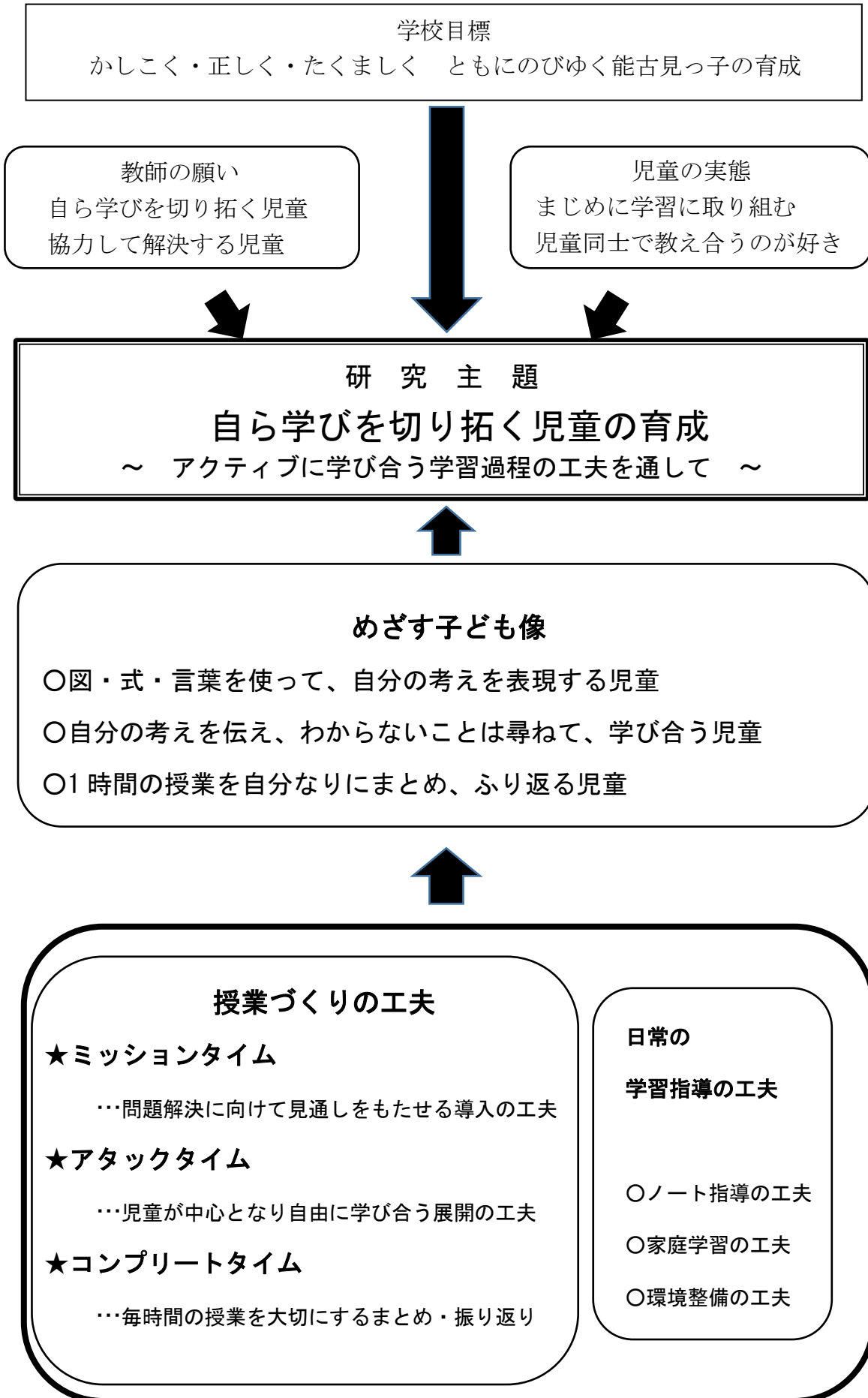


8 研修計画(令和5年度)

月日	計 画	月日	計 画
4/6	研究推進委員会	10/4	学年部会(公開授業準備)
4/19	全体研究会 (研究概要等提案・授業者決定)	10/25	前日準備
4/26	専門部会	10/26	鹿島市教育研究大会 公開授業(3年・6年)
5月	算数アンケートの実施	11月下旬	算数アンケートの実施
5/10	専門部会	12/6	専門部会
5/24	事前研(5年)	12/13	紀要について
6/1	全校研(5年) 講師:長崎国際大学 講師 浦郷 淳先生	1/24	今年度のまとめ
		2/28	来年度に向けて
6/14	事前研(1年)	※研究授業 <ul style="list-style-type: none"> ・10月26日(木)の公開授業 上学年1クラス、下学年1クラス ・公開授業前の提案授業の全校研 6月(高学年)7月(低学年) 〈講師〉 <input type="checkbox"/> 低学年 西部教育事務所 中島 良太先生 <input type="checkbox"/> 高学年 長崎国際大学講師 浦郷 淳先生 ※グループ研は9月に実施予定	
6/28	専門部会		
7/5	全校研(1年) 講師:西部教育事務所 中島 良太先生		
7/12	前期前半のふり返り		
7/19	専門部会		
8/2	・理論研究 講師:長崎国際大学講師 浦郷 淳先生		
夏季休業中	・10/26分指導案作成 ・専門部会 ・指導案検討会		
8/30	事前研(2年)(4年)		
9月	G研究授業 (2年)(4年)		



9 研究の構想



Ⅱ 研究の実際

1 授業づくりの工夫

1 学習過程の工夫

教師の役割と出番を吟味し、児童の学びの自由度と時間と場を保障するために、学習過程の見直しを図った。【表1】

- (1) ミッションタイム : 問題解決に向けて意欲と見通しをもつことができる導入
- (2) アタックタイム : 児童が中心となって自由に学び合う展開
- (3) コンプリートタイム : 毎時間の授業を大切にすまとめ・振り返り・補充完結

表1 学習過程

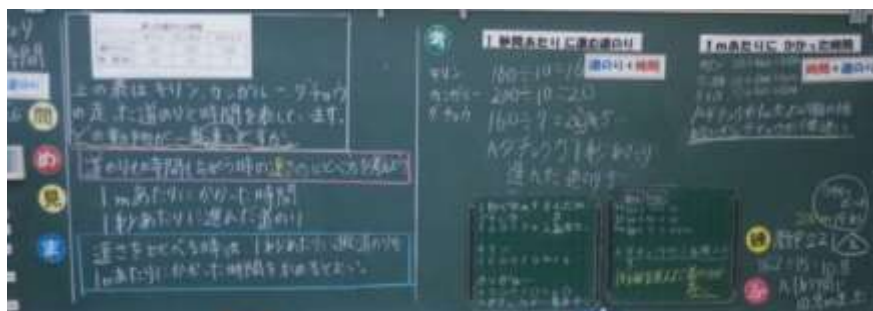
過程	学習活動	教師の役割
ミッション	㊦問題を把握する <ul style="list-style-type: none"> ・情報を処理し、データを取り出す ・マーキングする ㊧見通しをもつ ㊨めあてを設定する	㊦課題を焦点化する <ul style="list-style-type: none"> ・既習と比較→見方・考え方を共有 ・問題提示を工夫する (情報過多・情報不足・フラッシュ等) ㊧見通しをもたせる。(解決方法・ツール・使用道具) →題意のイメージ化(図や絵、操作活動) ㊨まとめとリンクさせる
アタック	㊩考える <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに記入する ・自由度のある対話をする(記録する…発表用) 	㊩見守る・つなぐ・支援する <ul style="list-style-type: none"> ・時間と場の設定 ・ルール作り ・板書(ナンバリングなどで分類・整理) ★自力=自分から何とかしようとする態度 全体…①吟味(考えの共有・確認) ②整理(共通点・相違点) ③深化(関連付け・修正・補充) リレー、再生、換言、要約
コンプリート	㊪まとめる ㊫振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの説明、Q&Aタイム、類題が解ける 	㊪言葉をつなげる・キーワード(穴埋め・選択) ㊫納得解へ導く(達成感・成就感・有用感へ) <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を示す ・時間を確保する

2 授業の取組

- (1) 板書について 【資料1】

板書の仕方を統一し、ノートも同じように書くようにした。

- ・左部…ページ、日付、単元名、時数、問題(黄)、めあて(赤)、まとめ(青)
- ・右部…児童の考え



資料1 板書の例

(2) マーキングについて

問題文から問いを見つけ、問いの解決に必要な情報を取り出すことができるように、問題文のマーキングの仕方を統一した。テストや他教科でも同様に行うことで、書き込む習慣や問題文をしっかりと読む習慣を身につけることができるように指導した。

ア 線（アンダーライン）の引き方

- ・聞いてある文に波線を引く。（答えの単位は□で囲む）
- ・大切な文に直線を引く。（必要な数字と単位は○で囲む）

イ 色ペンの使い分け

- ・赤ペン・・・「めあて」を囲む。丸付け、大切な言葉に線を引く。
- ・青ペン・・・「まとめ」を囲む。友だちの考えを付け加える。書き直し。

(3) ノート指導について【資料2】

児童の書くことに対する抵抗感を少なくし、学年が上がっても同じようにノートを使うことができるように全校で統一した。

- ・欄外にページ、単元名、時数を書く。
- ・見開き1ページを使う
- ・左側は【まとめのページ】…学習内容を確認するためのページ
→問題・めあて・まとめ・ふりかえりを書く。
- ・右側は【思考のページ】…丁寧さよりも、自分の考え（図・式・言葉）を書くためのページ
→自分の考え・友達の考えを付け加える（青ペン活用）

【まとめのページ】

【思考のページ】

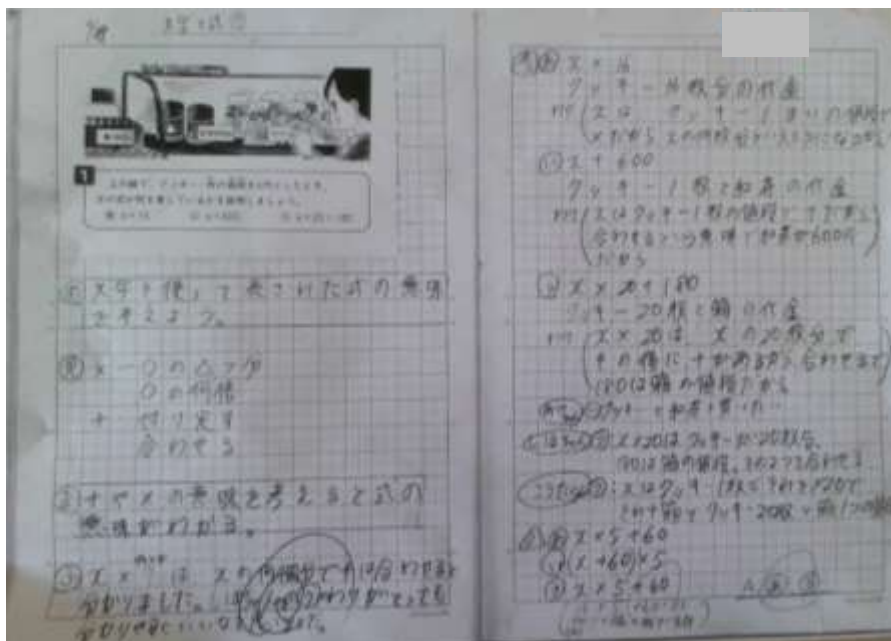
問題

めあて

まとめ

振り返り

図・式
言葉



資料2 ノートの例

(4) 自由度のある対話について

受け身ではなく自ら解決しようとする意識を高めたり、友達と交流する中で、ヒントを見つめたり自分の考えを修正したりすることができるように、自由度のある対話の時間を設定した。

ア 児童のルール（例）

- ① 最初は自分で考える。
- ② 必要に応じて、友達のノートを見たり、質問したり、説明したりする。
- ③ 答えを写す、答えを教えるのではなく、考え方や理由を話し合う。
- ④ 自分のノートに付け足す（加除修正）

イ 教師の役割

- ・全体での話し合いに向けて板書する児童・発表する児童を指名する。
- ・児童の様子を見取り、個別指導や全体での話し合いや評価に活用する。
- ・全体の対話活動では、問い返し・吟味・分類などを行い、思考の焦点化を図る。

2 指導の実際（1）

令和4年度第4学年1組 算数科学習指導案

日 時 6月3日（金）5校時
場 所 4年1組 教室（30名）
指導者 T1
T2

1 単元名 「垂直・平行と四角形」

2 単元とその指導について

（1）本単元は、学習指導要領、第4学年の2内容B「図形」（1）ア（ア）「直線の平行や垂直の関係について理解すること」、（イ）「平行四辺形、ひし形、台形について知ること」を受けて設定された単元である。

図形については、第2学年で長方形、正方形、直角三角形、第3学年で二等辺三角形や正三角形を学習してきた。本単元では、新たに2直線間の位置関係を考察する活動を通して、垂直や平行の定義や性質の理解と作図技能を身に付けることをねらいとしている。さらに、直線に向けられていた視点を直線で囲まれた形に移すことで、平行四辺形や台形、ひし形の学習に入っていく。後にある「直方体と立方体」の単元での、立体の面や辺の垂直や平行の学習につなげていく。

（2）児童について

本学級の児童は、図形の学習として「角とその大きさ」の学習を第4学年に入ってから行っている。いろいろな角度を読み取ったり作図したりする中で技能を身に付けてきた。しかし、正確に作図することや、180度を越える角の大きさの調べ方、三角定規の角の大きさを覚えることなどが定着していない児童も数名いる。学習内容の定着に時間がかかる児童も多いため、既習事項の確認を繰り返し行うことが必要と考えられる。

また、意欲的に発言する児童に限られているため、そうでない児童も、ペアやグループで意見を述べるなど、参加している意識をもたせたい。

（3）指導の工夫

本単元の指導にあたっては、「ミッションタイム」「アタックタイム」「コンプリートタイム」の学習過程にそって進めていく。「ミッションタイム」の段階で、既習事項の確認を毎時間行うことで、学習内容の定着に結び付けたい。また図形について調べる前には、平行や辺の長さ・角の大きさ等の視点や調べ方を確認して見通しをもたせ、「アタックタイム」で自分の考えが書けるようにしたい。「アタックタイム」の自力解決の時間にわからない時は、友達に聞いたり教科書をヒントにしたりして自ら動くよう声をかける。全体交流の場では、図形について見つけた特徴や定義を、実際に三角定規やコンパス・ものさしで調べたりする活動を全体でもう一度行い、具体的な活動で実感できるようにしていく。また、新しい定義が出てきた時は言葉で唱える時間を設け、学習内容の定着を図る。「コンプリートタイム」では、学習したことを生かして練習問題を解き、どんな方法で解いたのかペアで伝えたりふり返りで記述したりする時間を設け、理解度の確認を行い、次時につないでいきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

2直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知 直線の垂直・平行の関係について理解している。

思 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質を見いだすとともにその性質をもとに既習の図形をとらえなおして考えることができる。

主 平行四辺形、ひし形、台形などについて、数学的に表現・処理したことをふりかえり、多面的にとらえ検討し、生活や学習に活用しようとしている。

4 学習計画（全14時間 本時11/14）

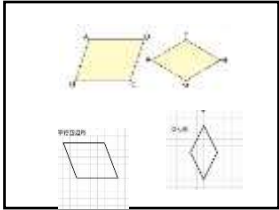
1	実際の道路の交わり方を観察し、直線の交わり方を調べる。
2	2直線の関係と平行、平行と垂直の関係を理解する。さらに、身の回りから、垂直・平行な直線を探す。
3	平行な2直線の性質を理解する。
4	1組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。
5	長方形を作図する。
6	方眼紙上で2本の直線の平行・垂直関係のよみとりと作図をする。
7	台形と平行四辺形の分類と定義をする。定義に基づき、台形・平行四辺形をさがす。
8	いろいろな平行四辺形を調べ、その性質を理解する。
9	平行四辺形を作図する。
10	ひし形の定義と性質を理解し、ひし形を作図する。
11(本時)	対角線を定義し、平行四辺形、ひし形の対角線の性質を理解する。
12	ひし形、長方形を三角形分割し、考察する。
13	平行四辺形の敷き詰めを考える。
14	学習をふり返る。

5 本時の指導（本時 11 / 14）

（1）本時の目標

対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方を調べ、その性質を理解する。

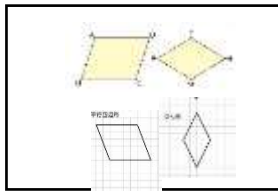
（2）展開

過程	学習活動	指導上の留意点 (○) T1 (●) T2 (◆) 評価	備考
ミ ッ シ ョ ン ⑩	<p>1 既習事項を振り返る。</p> <p>2 「対角線」について知る。 対角線を引く。</p>  <p>3 めあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>⑩ 平行四辺形とひし形の対角線のきまりを調べよう。</p> </div>	<p>○既習事項を確認するために、平行四辺形とひし形を提示し、性質（辺の長さ・角について）を問う。</p> <p>○平行四辺形とひし形の向かい合う頂点を結ぶよう指示する。</p> <p>●対角線を引くことができていない児童には、指で示しながら書くよう促す。</p> <p>○引いた直線を「対角線」と言うことを伝える。</p> <p>○平行四辺形とひし形の辺や角にはきまりがあったことを確認し、対角線についてもきまりがありそうか問いかけて、めあてにつなぐ。</p>	<p>電子黒板</p> <p>問題を印刷した紙 (児童用、板書用)</p>
ア タ ッ ク ⑫	<p>4 見通しをもつ。 台形を例に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対角線の長さ ・対角線の交わる角度 <p>(コンパス、定規、分度器、三角定規で)</p> <p>5 自分の考えをもつ。 (1人でタイム→友達タイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角定規や分度器を使って、垂直かどうかを確認する。 ・コンパスやものさしを使って、長さを確認する。 ・他のひし形・平行四辺形でも同じことがいえるか調べる。 	<p>○調べる視点をもたせるために、何を調べるとよいか問う。</p> <p>○どこを調べているかわかりやすいように、2本の対角線を色分けする。</p> <p>○どんな道具を使って調べると良いか考えるため、提示した台形について確認する。</p> <p>○同じ長さの所や直角の所に印を付けたら、角度を書き込んだりするよう声をかける。</p> <p>○気付いたことをノートに書くよう伝える。</p> <p>○平行四辺形とひし形を1つずつ調べた児童には、もう一組のひし形と平行四辺形についても同じことがいえるか調べるよう声をかける。</p> <p>●何も書けていない児童には、角度や対</p>	

<p>コンプリート</p>	<p>(全体) 調べたこと・気付いたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2本の対角線の長さは違う。 ・交わる点で、対角線はちょうど半分になる。 ・ひし形の対角線は垂直に交わる。 <p>6 まとめる。</p>	<p>角線の一部を指さして、測ってみよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形→ひし形の順で、長さや角度を、一つ一つ確認する。その際、実際に前に児童が出て道具を用いながら説明するよう促す。 ○特徴が理解しやすいように、直角の所や、同じ長さの所に印をつけて板書する。 ○2つの図形の対角線について、同じところと違うところを問う。 <div data-bbox="695 689 1198 1066" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆直角や同じ長さの所に印を付け、対角線のきまりに気付いている。</p> <p>【思・判・表】<ノート・発言> →印を付けていない児童には、調べる場所(長さや角度)について、指さして、どの道具を使うか問いながら、調べるよう促す。</p> </div>	
	<div data-bbox="277 1077 1174 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ㊦・平行四辺形の2本の対角線は、それぞれの真ん中の点で交わる。 ・ひし形の2本の対角線は、それぞれの真ん中の点で垂直に交わる。 </div> <p>7 問題をとく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形と正方形の対角線について調べる。 ・対角線から図形を予想する。 <p>8 ふり返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童から出てきた言葉を使ってまとめる。 ○板書から、特徴につながる言葉を取り出すよう伝える。 ○ノートに長方形と正方形をかいて対角線をかきこみ、対角線の特徴について調べるよう伝える。 ●図を描くことができない児童には、長方形・正方形の特徴を問いながら、描くよう支援する。 ○正方形と長方形の対角線について気付いたことを問う。 ○対角線のみを見せて、何の図形かを問う。ペアで理由を言うように指示し、理解を確認する。 ○今日の学習でわかったことやできるようになったことを書くように伝える。 	

6 板書計画

6/3 垂直・平行と四角形⑩ P. 81



⑩ 平行四辺形とひし形の対角線のきまりを調べよう。

⑪ 平行四辺形の2本の対角線は、それぞれの真ん中の点で交わる。
ひし形の2本の対角線は、それぞれの真ん中の点で垂直に交わる。

⑫

⑬

対角線の長さ

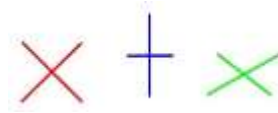
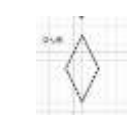
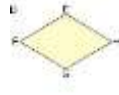
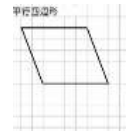
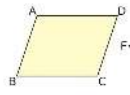
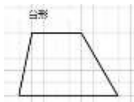
対角線の交わる角度

三角じょうぎ

分度器

コンパス

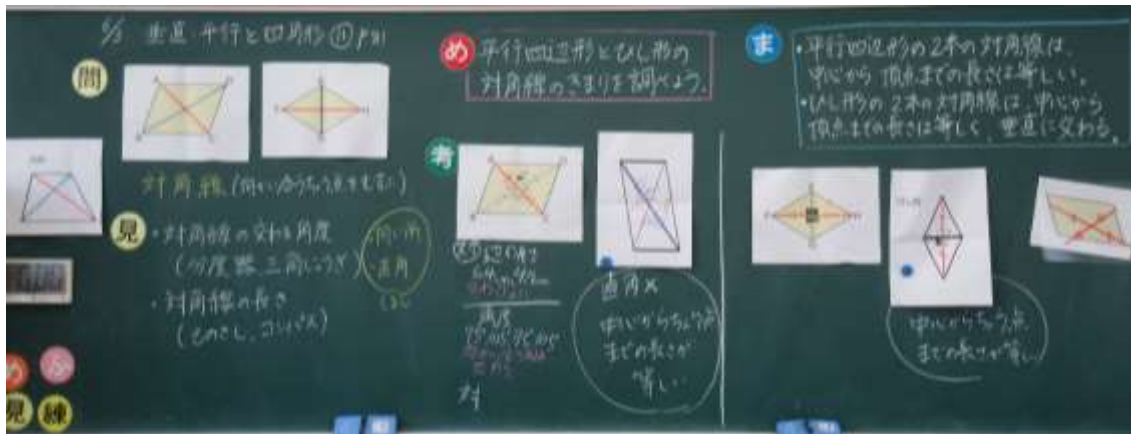
じょうぎ



・垂直には交わらない。
・真ん中から頂点までの長さは等しい。

・垂直に交わる。
・真ん中から頂点までの長さは等しい。

7 学習の様子及びワークシート等



資料1 本時の板書



資料2 アタックタイム



資料3 アタックタイム

考察（成果と課題）

	成果	課題
ミッション	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを活用して、本時のゴール（対角線だけで何の図形かわかるようになる）を示したことで、意欲を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「対角線」の定義がまだ入っておらず、どこを測るか分かっていない児童が多かった。対角線をみんなで引いたり、対角線のみにしたスライドを提示したりすると焦点化できた
アタック	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する道具を確認していたので、取りかかりが早かった。 ・対角線を色分けして板書したことで比較したり説明したりしやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこを調べるか分かっていない児童がいたので、ヒントカードを用意する必要があった。
コンプリート	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示した対角線から何の図形か考え、ペアで根拠を説明する時間を設けたことで、考えを言語化することになり、児童の理解を深めることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対角線から図形を予測させた後、対角線に正解の図形を当てはめて確認する作業は良かったが、全ての図形の提示はできなかったため、全部確認できると良かった。

令和4年度第3学年1組 算数科学習指導案

日 時 9月9日(金) 5時間目

児 童 3年1組 27名

場 所 3年1組 教室

指導者 T1

T2

1 単元名 「あまりのあるわり算」

2 単元とその指導について

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領、第3学年の算数科の内容「A 数と計算」の(4)「除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。」を受けて設定された単元である。本単元では、「あまりのあるわり算のしかた」「あまりを考えて」の2つの小単元からなっている。既習のわり切れるわり算と同様にかけ算九九を用いれば計算できることや、あまりはわる数よりも小さくなることをとらえることができるようにすることがねらいである。また、あまりについてのとらえ方を深め、場合に応じたあまりの処理ができるようにし、日常生活の様々な場面でも使えるようにすることもねらいとしている。

(2) 児童について

本学級の児童は、わり算を九九と上手くつなぎ合わせ、問題に取り組むことができている児童が多い。しかし、かけ算の逆算を考えるとという応用的な発想を苦手としている児童も見られる。レディネステストをした結果、基礎的な計算力を必要とする計算問題では、約8割の児童が理解していたが、文章題や文章作成問題などの応用的な問題では、半分以上が不正解だった。このことから、分かったことを伝えたり、応用したりする問題に課題が見られる。本単元は、あまりについて学び、それを活用する問題を取り扱うので、問題をしっかりと理解し、自分の考えを伝える力を習得するのに有効なものと考え。

(3) 指導について

本単元の指導にあたっては、「ミッションタイム」「アタックタイム」「コンプリートタイム」の学習過程にそって進めていく。「ミッションタイム」の段階では、既習事項の確認を毎回行うことで、学習内容の定着に結び付けたい。また、問題文に対してマーキングを行い、問われていることを明確にして「アタックタイム」につなげたい。「アタックタイム」では、それぞれが求めやすいやり方で行えるよう、図や言葉を使うよう声掛けを行う。自力解決の時間で分からない時には、これまでのノートや教科書を見直してヒントを見つけて求められるよう支援する。友達の考えを見て、自分の考えを広げたり深めたりする場として、良い考え方ができている友達のを参考にしよう声掛けで取り上げていく。全体交流の場では、図や言葉を使って友達に分かりやすく伝えることができるよう発問を行い、児童の考えを関連付けて共有して答えを求めていきたい。「コンプリートタイム」では、学習したことを生かして練習問題を解き、なぜその答えになるのかペアで伝えたり、振り返りで自分の考えを見直す時間を設けたりして、自分の定着度の確認を行い、次時につないでいきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

余りのあるわり算について、あまりの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知 余りのあるわり算の計算の仕方が分かり、その計算ができる。また、場面に応じて、余りを的確に処理することができる。

思 わり算の意味に基づいて、余りのあるわり算の答えの求め方を考えることができる。また、わる数と余りの大きさの関係をとらえることができる。

主 余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。

4 学習計画（全8時間 本時6/8）

1	物を分けるとき、あまりが出ることを知り、そのような計算方法を考えていくという課題をつかむ。
2	わり算の意味に着目し、あまりはわる数より小さくなることを理解する。
3	等分徐であまりのあるわり算の意味を理解する。
4	あまりのあるわり算の答えの確かめをする。
5	学習内容を確実に身につける。
6（本時）	問題場面のあまりの意味に着目し、あまりを切り上げて処理する問題を理解して活用する。
7	問題場面のあまりの意味に着目し、あまりを切り捨てて処理する問題を理解して活用する。
8	学習内容の理解を確認する。

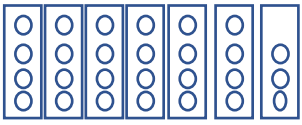
5 本時の指導（本時6/8）

(1) 本時の目標

問題のあまりの意味に着目し、あまりを切り上げて処理する問題を処理することができる。

(2) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価		備考
		T1	T2	
ミ ッ シ ヨ ン ⑩	1 前時の振り返りを行う。 2 問題を知る。 問 27人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。	○前回の振り返りを共有する。 ○問題にマーキングをするよう声掛けを行う。 ○立式を行い、式の答えまで全員で導く。 ○答えが何か式から考えるよう指示する。	○書くことが苦手なETやUKなどにマーキングを行うよう支援する。	電子黒板 問題

	<p>3 見通しをもつ。</p> <p>式 $27 \div 4 = 6$ あまり 3</p> <p>答え <u>6</u> きやく? <u>3</u> きやく?</p> <p><u>6</u> きやくあまり <u>3</u> きやく? <u>7</u> きやく?</p> <p>・あまりをどうすればよいか</p>	<p>○あまりをどのように扱えばよいのかということに焦点を向け、めあてにつなげる。</p>	<p>○出された考えに対して、疑問をもたせるような発問を行う。</p>	を印刷した紙
<p>ア タ ク ク ⑳</p> <p>コン プ リ ー ト ⑮</p>	<p>4 めあてをもつ。</p> <p>5 自分の考えをもつ。</p> <p>・今の時点での意思表示をハンドサインで行う。</p> <p>・図や式を使って答えがどうなるのか考える。 (自力解決→全体交流)</p> <div data-bbox="255 913 635 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>👉→まったくわからない</p> <p>👉→なんとなくわかるが、説明はできない</p> <p>👉→説明できる</p> </div> <p>・図を全体で共有して全体で考えを整理する。</p> 	<div data-bbox="539 448 1133 515" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>㊦ あまりをどうすればよいかを考えよう</p> </div> <p>○アタックタイムに入る前に、この段階でどの程度求められそうか、ハンドサインで意思表示を行うよう指示する。</p> <p>○分からない児童には、ノートや教科書を見直すよう支援する。</p> <p>○分からない児童には、数の単位を書いてあまりの意味を考えるよう支援する。</p> <p>○すでに求め終わっている児童には、別の方法でも考えてみるよう促す。</p> <p>○分かりやすい考え方など見つければ、より多くの考えに触れて参考にするよう声をかける。</p> <p>○全体で児童の考えを共有して、図や式、言葉の関連付けを行っていく。</p>	<p>○かけてない児童には、問題文の「みんなすわる」に着目し、答えを求めるよう促す。</p> <p>○文章理解や考えを書くのが苦手な UK や SS、ST、KK などを中心に支援を行い、自分の考えが持てるよう声掛けを行う。</p>	
	<p>6 まとめる。</p> <p>7 練習問題を解く。</p> <p>・P. 111 の㊦</p> <p>・ペアで説明する。</p> <p>8 振り返りを書く。</p>	<div data-bbox="475 1473 1356 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>㊧ みんなすわるために、あまりの人の分も 1 きやくも足すとよい。</p> </div> <p>○問題文の大事な言葉「全部」に注目して考えるよう支援する。</p> <p>○問題の意味を理解し、ペアで説明し合い、学習の理解度を確認する。</p> <p>○今日の学習で分かったことやできるようになったことを書くように伝える。</p>	<div data-bbox="1117 1590 1433 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆あまりの意味に着目し、あまりを切り上げて処理することを図や表で説明している。【思・判・表】〈ノート・発言〉</p> <p>→あまりの処理の仕方を考えさせる。</p> </div>	

6 板書計画

9/9 あまりのあるわり算⑥ P.111

問 27 人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんなすわるには、長いすは何きやくいりますか。

見・図を使って
・言葉を使って

④あまりをどうすればよいかを考えよう

④みんなすわるために、あまりの人の分も1きやくも足すとよい。

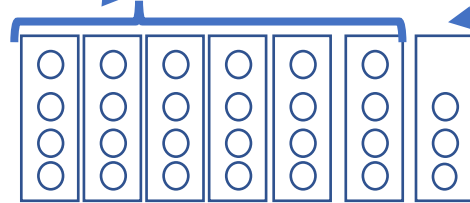
④

式 $27 \div 4 = 6$ あまり 3

答え 6きやく ?

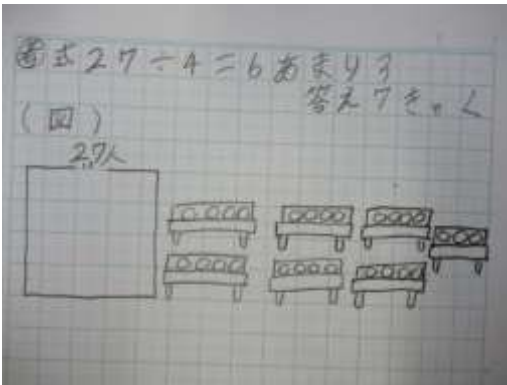
6きやくあまり3?

7きやく ?



みんなすわるための1きやく
あまりの人もすわるための1きやく

7 学習の様子及びワークシート等



資料1 児童のノート



資料2 アタックタイムの様子

8 考察（成果と課題）

	成果	課題
ミツシヨ	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んでマーキングを行い、必要な言葉・数を見つけることができていた。 問題の内容を問いながら、どのような図になるか確認していくことで問題を整理することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示の時に、問題場面がイメージできない児童にはなかなか難しかったので、より日常的な問題になるように工夫した提示をするべきだった。
アタック	<ul style="list-style-type: none"> 児童たちが自らの考えを出し合って理由を教え合う姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物操作できるスペースやヒントカードのようなものを設けておけばよかった。戸惑っている児童の自力解決にもつながると感じた。
コンプリー	<ul style="list-style-type: none"> あまりをどうすればよいのか話し合っ解決することができていた。理解が十分でない児童と学びあう様子が見られて学び合いの姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題の十分な時間を取ることができず、理解できたかをその時間で見るができなかった。

2 指導の実際（2）

令和5年度第1学年1組 算数科学習指導案

日 時 7月5日（水）5校時
児童数 17名
場 所 1年1組 教室
指導者 T1
T2

1 単元名 「ひきざん(1)」

2 単元とその指導について

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領、第1学年の2内容A「数と計算」（2）ア（ア）「加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。」（イ）「加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。」（ウ）「1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。」イ（ア）「数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。」を受けて設定された単元である。

生活の中の具体的な場面から減法の場面を見出し、それらを式に表したり、確実に計算したりできるようにすることをねらいとしている。減法には、「残りの数」を求める求残、「部分の数」を求める求部分、「ちがひ」を求める求差の場面がある。問題と数図ブロックを取り去る操作が一致し、イメージしやすい求残の場面から入り、求部分、求差でもたし算と同様、具体物や数図ブロック操作と言葉を関連づけながら繰り返し表現することで、減法の意味を理解できるようにする。

そして今後、学習する「3つの数の計算」や「繰り返し下がりのあるひき算」につなげていく。

(2) 児童について

本学級の児童は、算数について「好き」「だいたい好き」と答えている児童が100%で、学習意欲が高く、進んで発表できる児童が多い。その反面、発表する児童は決まっています、自信がないために全く挙手しない児童が数名いる。また、ノートをとる際に、ひらがながスムーズに書けなかったり、友達タイムでは自分の考えをなかなか話せなかったりする児童もいる。前々単元「いくつといくつ」では、ブロック操作で数の合成・分解を学習した。レディネステストとして、10がいくつといくつになるかの問題に取り組みさせたところ、指を使ってはいるものの指の操作が分からないでいたり、図を数えて答えを求めたりしている児童も数名いた。そのため、ブロック図と言葉を関連づけて繰り返し表現させたり、家庭学習において算数音読を取り入れたりして手立てをとった。前単元「たしざん」では、「合わせて」「みんなで」「全部で」「ふえると」という言葉があれば「手はガッチャン」という合言葉を使って「ブロックを合わせる」操作をして、たし算の式になることを学習してきている。本単元でも、ブロック操作と言葉での表現を通して、減法の意味を正確に理解させた上で取り組ませたい。

(3) 指導について

本単元では、「ミッションタイム」「アタックタイム」「コンプリートタイム」の学習過程に沿って進めていく。「ミッションタイム」で、課題把握のために挿絵を活用し、ブロック操作への見通しをもたせる。また、既習事項である第1単元の「なかまづくりとかず」の学習で個数の多少を1対1対応の方法で比べたことを想起させることで、引き算への見通しをもたせる。さらに「アタックタイム」では、ブロック操作と場面を表す言葉、式を関連づけながら解決に向かわせたい。まず、自力解決で取り組み、その後、友達タイムや全体交流で

考えを深めていく。その際にも、必ず場面を表す言葉を言いながらブロックを操作させる。「コンプリートタイム」では、ふり返りを自分の言葉で言ったり、友達の考えのよさを見つけさせたりしたい。また、単元を通して、書くことへの負担を減らすために、ワークシートを作成し、活用する。

本時の学習では、まず「ミッションタイム」で、メロンとスイカの挿絵を使って視覚的に問題把握できるようにする。前時の学習の求差の学習では、ブロックを使って1対1対応で比べたことを確認し、見通しをもたせる。「アタックタイム」では、前時のようにブロックを操作して考えることを確認し、自力解決に取り組ませる。その際に、メロン6個分のブロックからスイカ2個分のブロックを「取る」ことで、残ったブロックの数だけメロンが多いことに気付かせる。よって、減法の式 $6 - 4 = 2$ が成り立つことを確実に理解させたい。T2は、自力解決が難しい児童も多いことから、一緒にブロックを動かすなどの支援を行う。友達タイムや全体交流では、ブロック操作の意図を「なぜそのように動かしたの」などの声かけをして話し合いに生かしたい。その際、T2は、児童の言葉を補足したり、質問をしたりして話し合いを促す。「コンプリートタイム」では、練習問題を一緒にすることで、理解の定着を図りたい。さらに、ふり返りを自分の言葉で表現させたり、友達の考えのよさを見つけさせたりしたい。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

ひき算について、式の読み方、書き方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数) - (一位数) の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

(2) 単元の評価基準

知 ひき算が用いられる場面やひき算の記号や式の読み方、書き方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。

思 求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えることができる。

主 求残、求部分、求差の場面をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。

4 学習計画(全10時間 本時 7/10)

次	時	学 習 活 動
1	1	数図ブロックを操作し、求残の場面を理解する。
	2	ひき算の式を知り、求残の場面をひき算の式に表して、答えを求める。
	3	数図ブロックを操作し、求部分の場面をひき算の式に表して、答えを求める。
2	4	ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。
	5	カード遊びを通して、ひき算の計算に親しむ。
3	6	数図ブロックを操作し、求差の場面を理解する。
	7 (本	数図ブロックを操作し、求差の場面をひき算の式に表して、答えを求める。
	8	「ちがひ」という用語による求差の場面を理解し、答えを求める。

4	9	ひき算の問題を読んで、ひき算の式に表し、答えを求める。
5	10	絵を見て、たし算やひき算の式になる話を作る。

5 本時の指導(本時 7/10)

(1) 本時の目標

「いくつ多いかを求める」場面でも、ひき算の式に書いて答えを求めることができる。


(2) 展開

時	学習活動	指導上の留意点 ◆評価基準	
		T 1	T 2
ミ ッ シ ョ ン タ イ ム ⑦	<p>1 前時までを振り返り、本時の問題を知る。</p> <p>めるんのほうがなんこ おおいですか。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>④いくつ おおいかを しきに かこう。</p>	<p>○求残や求部分の学習をしたことを振り返る。</p> <p>○はてなボックスの中から挿絵を出し、関心をもたせる。</p> <p>○挿絵を提示し、視覚的に問題把握できるようにする。</p>	○机間指導により、めあてが書けていない児童 (NK、TA) の支援をする。
ア タ ッ ク タ イ ム ⑮	<p>3 見通しをもつ。</p> <p>めるん(6こ) すいか(2こ) めるんのほうがなん(こ)おおいですか。</p> <p>・おおいのは、めるん。 ・ぶろっくを6こ(オレンジ)と2こ(青)ならべる。</p> <p>4 自分の考えをもつ。 (1人でタイム→友達タイム)</p> <p>(全体)</p> <p>・オレンジを2個動かして 式を立てる。 ・両方とも重ねて2個、動かして式を立てる。 ・オレンジと青を縦に並べて一緒に2個動かして式を立てる。</p>	<p>○大切な数字や問いにマーキングする。</p> <p>○メロンとスイカでは、どちらが多いか確認する。</p> <p>○メロンとスイカの挿絵をどう動かしたらよいか考えさせる。</p> <p>○前時でブロックを使い、1対1対応して比べたことを確認する。</p> <p>○数図ブロックに置き換え、操作させる。</p> <p>○なぜそう動かしたのかを問い、考えを整理させる。</p> <p>○「2個取る」という操作をさせ、それがひき算の式になることに気付かせる。</p> <p>○ペアで言葉を言いながらブロックを操作させ、考えを交流させることで自信につなげたり、友達の考えを知ったりさせる。</p> <p>○自分の考えをブロック操作をしながら発表させる。</p> <p>○「多い数から少ない数をひく」ことをおさえる。</p>	
コ ン プ ー ト	<p>5 まとめる。</p> <p>・すいかの分2個を</p>	<p>○青(スイカ)のブロックがオレンジ(メロン)のブロックに置</p>	<p>○机間指導をして、ブロック操作でつまずいている児童 (TA、NK、HS、MK、YK など) には、一緒にブロックを動かして支援する。</p> <p>○なぜそうしたのか問い、理解を深める。</p> <p>○ブロック操作をして「2個取る」ということに気付かせる。</p> <p>○児童の言葉を補足したり、質問したりして話し合いを促す。</p> <p>○立式でつまずいている児童には、ブロック操作をしながら支援をする。</p>

<p>「ばいばいする」「取る」</p>	<p>き換わっていることを確認する。</p> <p>○「取る」こともひき算の式になることを知らせる。</p>	<p>◆数図ブロックを操作し、ひき算の式に表し、答えを求めることができる。【知・技】〈ブロック操作・ワークシート〉→友達の考えを用いて、自分の考えを導き出せるように促す。</p>
<p>⑤いくつ おおいかのときも ひきざんのしきになる。</p>		<p>○個別指導を行う。</p> <p>○ふり返りの視点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばったこと ・大事だと思ったところ ・初めて知ったこと ・友達のよかったところ
<p>6 練習問題2を解く。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○大切な数字や問いに印をつけさせ、ブロックを動かしてから、一緒に課題解決していく。</p> <p>○ふり返りを発表させる。</p> <p>○次時では、「ちがいはいくつ」について学習することを伝える。</p>	

6 板書計画


7/5 ひきざん(1)
57 ペえじ

① 

6こ 2こ

めろん(6こ) すいか(2こ)

めろんのほうがなん()おおいですか。

② 

③

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

④

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑤

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑥

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑦

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑧

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑨

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑩

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑪

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑫

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑬

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑭

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑮

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑯

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑰

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑱

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑲

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑳

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉑

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉒

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉓

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉔

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉕

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉖

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉗

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉘

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉙

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉚

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉛

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉜

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉝

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉞

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㉟

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊱

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊲

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊳

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊴

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊵

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊶

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊷

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊸

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊹

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊺

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊻

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊼

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊽

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

㊾

7 学習の様子及びワークシート等



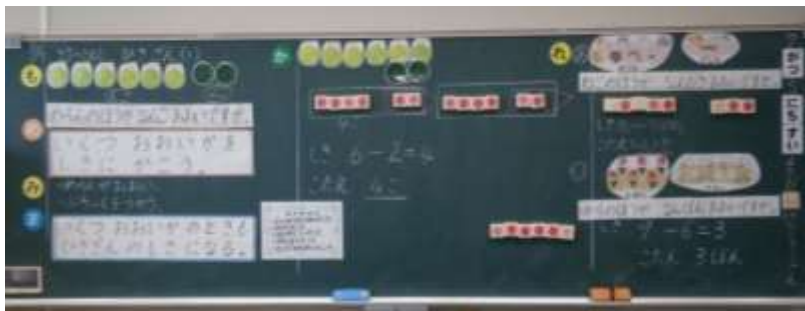
【資料1 アタックタイムの様子（友達タイム）】



【資料2 アタックタイムの様子（全体学び）】



【資料3 ワークシート】



【資料4 本時の板書】

8 考察（成果と課題）

	成果	課題
ミッション	<ul style="list-style-type: none"> ・はてなボックスの中から挿絵を取り出したことで、本時の学習に関心をもたせることができた。 ・挿絵を提示したり、マーキングをさせたりしたことで、視覚的に問題を把握し、見通しをもたせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の発達段階を考慮して、板書計画と同じ形式のワークシートを作成し、書くことへの負担を減らすようにしたが、今後はノートに自分の考えを書けるようにしていきたい。
アタック	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、数図ブロックを使って自力解決した後、友達タイムでブロック操作をしながら言葉での説明をし合ったことで、「ブロックを取る」ことがひき算の式になると理解することができた。また、友達タイムをしたことで、自分の考えに自信をもったり友達の考えを知ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、ブロック操作をして答えを見だせていたものの言葉で説明することが難しかった。前時で行ったブロックでの1対1対応を本時でも確認し、ちがいを理解させる必要があった。 ・児童の実態に応じて具体物やブロックでの操作を十分に行わせた上で、立式につなげる必要がある。
コンプリート	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題も挿絵を提示したり、マーキングをさせたりして、場面把握しながら取り組んだことで、答えの見通しをもつことができた。 ・T2が誤答を提示し、ゆさぶることで考えを深めることができた。 ・視点を与えたことで、めあてやまとめに沿ったふり返りを発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に出てきた数字を先に書いて立式している児童がいたので、小さい数からは引けないことをブロックを使って確認する必要があった。 ・理解の定着を図るために、具体物や数図ブロック操作、言葉での説明、式を関連付けて指導していくことが大切である。

令和5年度第5学年1組算数科学習指導案

日 時 6月1日(木) 5校時

場 所 5年1組教室 29名

指導者 T1

T2

1 単元名 「小数のわり算」

2 単元とその指導

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領、第5学年の2内容A「数と計算」(3)ア(ア)「乗数や除法が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。」(イ)「小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。」を受けて設定された単元である。

第4学年「小数のかけ算とわり算」では、被除数が小数である場合の除法について、計算の仕方を考え、その計算ができるようになった。本単元では、除数が小数である場合の除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、それらの計算ができるようにする。除数が小数の場合でも、除法を用いることができるように、小数でわるわり算は、等分のイメージから単位量(1に当たる大きさ)を求める計算であると意味を理解することが必要である。また、等分した1つ分を求める計算から、1あたりの大きさを求める計算を活用し、純小数でわると商は被除数よりも大きくなることを理解させる。さらに、小数のわり算の筆算について学び、わり算の性質の理解を深めて、今後の学習につなげたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、これまでに「小数のかけ算やわり算」の単元で小数×整数、小数÷整数の学習を第4学年に行っている。第5学年では、「小数のかけ算」で整数×小数や小数×小数について学習してきた。乗数が小数になった場合の計算方法についてそれぞれ考えてきた。レディネステストをした結果、多くの児童が小数÷整数の計算方法を身につけ、問題を解くことができていた。しかし、1あたりの大きさについて計算は合っているにもかかわらず小数点の位置を上手く捉えることができずに悩む児童がいた。また、小数÷整数の筆算では、わり算の性質を理解できず、小数点の位置を戸惑う児童もいることが分かった。

(3) 指導の工夫

本単元の指導にあたっては、「ミッションタイム」「アタックタイム」「コンプリートタイム」の学習過程に沿って進めていく。数の関係を正しく捉えさせるために数直線や関係図を使って、課題解決につなげていく。「ミッションタイム」の段階では、4年時で学習した小数×整数、小数÷整数の学習内容を確認しながら、見通しをもたせ学習を進めていく。「アタックタイム」では、まず自力解決に取組み、その後友達タイムや全体タイムを通して学び合いを行う。ヒントカードを準備したり、児童から出ない考えをT2が紹介したりするなどして、多様な考えを出させたい。学び合いの場では、友達の考えの良いところを発表させたり、疑問に思った事を質問させたりして学びに繋げていく。「コンプリートタイム」では、なるべく児童の言葉で学習のまとめをする。その後、学習した内容を生かして練習問題に取り組み、定着を図る。

本時では、除数が小数である計算の解き方としてどんな方法が解きやすいのか全体で話し合い、考えやすい方法を見つけ、課題解決を行う。「ミッションタイム」では、 $96 \div 2.4$ のおおよその商について見当をつけさせる。さらに、4年時の学習より、除数が整数の場合には課題解決ができることを振り返らせ見通しをもたせる。「アタックタイム」では、見通しをもとに自力解決に取り組ませる。考えられる解決方法としては、①0.1m分の値段を考えてから1m分を求める方法 ②24mの値段を出してから1m分の値段を求める方法、③わり算の性質を使って被除数・除数ともに10倍してから計算する方法が考えられる。どの考えも整数に帰着して考えていることに気付かせ、最終的には、わり算の性質を使った被除数、除数共に同じ数をかけて整数にして計算することが簡潔な方法であることに気付かせたい。①、②、③のそれぞれの考えに導くヒントカードを用意し、T2が自力解決の難しい児童や別の考えに取り組む児童に渡すようにする。自ら友達に聞きに行ったり、ヒントカードを使って考えたりして取り組ませる。早く解き終わった児童は、解決の見通しがもてない児童に教えに行き、学び合いを行えるようにしていく。全体発表では、発表ボードに発表したい児童が自分の考えを書いて発表を行い、出てこなかった考え方をT2が紹介をする。その後、児童にはどの考えがわかりやすかったのか発表させ、全員でどの方法がよいか話し合う。最後にはわり算の性質を使った計算が簡潔な方法であるという事に気づかせたい。「コンプリートタイム」で、練習問題を解く際には、早く解き終わった児童が他の児童に教えに行くことで学び合いの場を作る。また、振り返りを記述する時間を設け、理解度の確認を行い、次時につなげられるようにしていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知 小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法計算ができる。

思 小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。

主 図を用いたり、小数の仕組みや計算の決まりを用いたりして、小数の除法の意味とその計算の仕方を考えようとする。

4 学習計画 (全 14 時間 本時 2/14)

次	時	学習活動
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項をふまえながら、日常の中で(整数)÷(小数)になる場面を考える。 (整数)÷(帯小数)の立式をする。
	2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> (整数)÷(帯小数)の計算の仕方を考え、説明する。
	3	<ul style="list-style-type: none"> (整数)÷(純小数)の立式をし、その計算の仕方を考え、説明する。 除数と商の大きさの関係について話し合い、まとめる。
2	4	<ul style="list-style-type: none"> (小数)÷(小数)の立式をし、その計算の仕方を考え、説明する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> (小数)÷(小数)の計算を筆算で行い、その仕方を理解する。
	6	<ul style="list-style-type: none"> (小数)÷(小数)でわり進む筆算、$\div 3.14$の筆算の仕方を理解する。

	7	・わり進む場合の筆算の仕方を理解し、わり切れないときの商を概数で表す。
	8	・商と余りを求める計算をし、余りの大きさについて考える。
	9	・タブレットや教科書の練習問題を解く。
3	10	・小数倍の意味とそれが適用される場面について考える。
	11	・小数倍の意味とそれが適用される場面について理解する。
	12	・ $a \times b \times c = d$ の場面で、 a や d を求めるのにまとめて考えて解く。
	13	・加法と減法、乗法と除法の相互関係について調べる。
学習のまとめ	14	・学習内容の理解を確認する。

5 本時の指導 (2/14)

(1) 本時の目標

見通しを立てて、整数を小数でわる計算の仕方を考えたり、説明したりすることができる。

(2) 展開

時	学習活動	指導上の留意点◆評価規準		備考
		T1	T2	
ミ ツ シ ョ ン タ イ ム ⑩	1. 問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">問2.4mで96円のひもがあります。このひも1m分のねだんはいくらですか。</div>	○前時のわる数が小数でも整数と同じように立式できることを確認し、本時は、前時の問題を計算することを目的とするよう意識付ける。	○机間指導により、問題文が書けていない児童（NTやSHなど）の支援をする。	
	2. めあてをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">㊦小数でわる計算の仕方を考えよう。</div>			
ア タ	3. 見通しをもつ。 ・答えの見通しをもつ。 おおよその商の大きさを考える。 ・解決の見通しをもつ。 整数×小数の方法と同じ すべて整数にすれば解ける。	○児童が答えを求められるように商が32～48の間のことをおさえる。 ○これまでに学んだ計算方法を考え、使えそうな考え方を共有する。	○NK、OHやYNなど解決が難しい児童への支援を行う。	
	4. 自力解決をする。	○1つの考えがで	○自力解決が難	

<p>ツクタイム ②⑤</p> <p>コンプリートタイム ⑩</p>	<p>(一人タイム) 《予想される児童の考え》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1mをもとにして考える。 ・24mの値段を出してから考える。 ・わり算の性質を使って考える。 </div> <p>5. 課題解決の共有をする。(友達→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを全体に説明する。 ・友達と考えを比べ、様々な方法での解き方を知る。 ・どの方法が解きやすいか話し合い、自分が解きやすい方法を見つける。 <p>6. まとめる。</p>	<p>きたら、多様な考えができるように、別の求め方がないかを促す。</p> <p>○わかりやすいと思う友達の名前と考えを自分の言葉に変えて書く指導する。</p> <p>○出された考えを整理することで、児童がどの方法が解きやすいか話し合い、自分で見つけられるようにする。</p>	<p>しい児童に、わり算の性質を使った求め方のヒントカードを渡して考えさせる。</p> <p>○児童から出なかった考えがあれば提示し、多様な考えがあることを伝える。</p>	
<p>⊕小数でわるわり算はすべての数を整数にもどしてわり算の性質を使うと計算できる。</p>				
	<p>7. 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P. 55 の△3を解く。 ・解き終わったら他の児童に説明に行く。 <p>8. ふりかえりを行う。</p>	<p>○解き終わった児童から友達に説明に行かせる。</p> <p>○ふりかえりの視点を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えで学んだこと ・新しい発見(～が分かった。) ・友達の考えでよかったところ ・○○さんの～の考えが納得できた 	<p>○わり算の性質を使って問題を解くよう促す。</p> <p>◆見通しを立てて、整数を小数でわる計算の仕方を考えたり、説明したりしている。【思・判・表】 〈ノート・発言〉→ヒントカードや友達の考えを用いて、自分の考えを導き出せるよう促す。</p>	

6 板書計画

6/1 小数のわり算②P.54 P.55

問 2.4mで96円のひもがあります。このひも1m分のねだんはいくらでしょう。

④ 小数でわる計算の仕方を考えよう。

見 ・かけ算と同じ方法
・整数にもどす・わり算の性質

⑤ 小数でわるわり算はすべての数を整数にもどしてわり算の性質を使うと計算できる。

考 式 $96 \div 2.4$

$$\begin{array}{c} 96 \div 2.4 = \square \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 96 \div 24 = \square \end{array}$$

$$\begin{array}{c} 0.1\text{mのねだん} \\ \downarrow \times 24 \quad \downarrow \times 24 \\ 2.4\text{mのねだん} \end{array} \div 24$$

わられる数とわる数に10をかけても、商は変わらないから、
 $96 \div 2.4 = (96 \times 10) \div (2.4 \times 10) = 960 \div 24 = 40$

2.4mは0.1mの24倍だから、0.1m分の値段は、 $96 \div 24$ 1m分の値段は、その10倍だから、
 $96 \div 2.4 = (96 \div 24) \times 10 = 40$

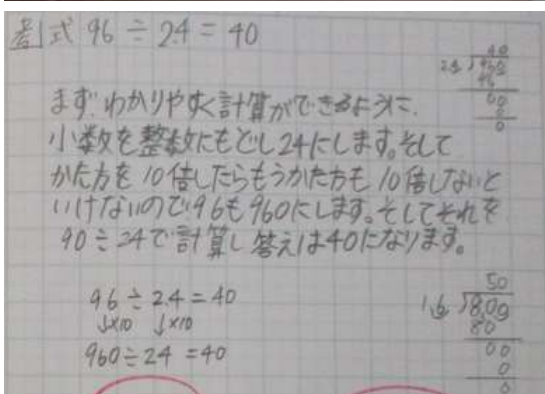
☆授業の視点（アクティブに学び合う学習過程の工夫）

ミッションタイム	アタックタイム	コンプリートタイム
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて商の大きさの見当をつけた。 小数÷整数の学習について、既習事項の確認をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決が難しい児童へヒントカードを渡した。(内容、タイミングはどうであったか) 学び合いのさせ方はどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組んだあと、他の児童に説明にいく時間を取った。

7 授業の様子およびワークシート等



【資料1 当日の板書】



【資料2 学び合い後のノート】



【資料3 学び合いの様子（友達タイム）】



【資料4 学び合いの様子（全体学び）】

8 考察（成果と課題）

	成果	課題
ミツシヨ	<ul style="list-style-type: none"> ・マーキングを行うことで、除数と被除数の見分けが分かった。 ・既習内容の確認や、商の大きさの見当をつけたことが、自力解決の手助けになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を使ったり、具体物操作をやってみたりする場面が必要だと感じた。
アタック	<ul style="list-style-type: none"> ・友達タイムの時間を十分にとることで、活発な学び合いができた。また、学級で質問しやすい雰囲気があり、「なんでこうなるの。」という問いかけから活発な学び合い始められた。 ・ヒントカードを用意したことで、低位の児童も自力解決できた。 ・役割分担を行い、T2が他の解き方を紹介したことで、児童がいろいろな考えを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信がなくなり、書き直している児童がいた。友達の考えを書き加えるなどのノート指導の工夫が必要だった。 ・一人で学ぶ時間を十分にとることで、思考が止まらないようにすることが大事だと考えた。 ・発表ボードを使用したがるが、説明を書く場合は、キーワードに絞ることも必要だと感じた。（ノート→ボードへ同じことを繰り返し書くことで時間のロスが見られた。） ・意図的指名も有効に活用していきたい。
コンプリート	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が丸を付けることで、自信につながった。 ・解き終わった児童は、他の児童に説明を行ったことで理解が深まった。 ・わり算の性質を使って、問題が解けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の性質を使えていない児童には、わり算の性質をもう一度確認する必要がある。 ・児童の実態に合わせて、少人数という学習形態の工夫もできたと考えられる。

3 専門部の取組

(1) 学び部

ア まなびタイムについて

まなびタイムの主な内容

朝の時間のまなびタイムを全校で統一して計画的に運用した。国語は、正確に速く書く力を鍛えるために視写を中心に行い、算数は100マス計算に取り組み、基礎・基本の定着を図った。ファイルに綴じていくことで、自分の計算力が伸びていることが目に見えるため達成感につながっている。

また、見え方が難しい児童にとってはビジョントレーニングになっている。

算数	国語
計算ドリル 100マス計算 (たし算・ひき算・ かけ算・わり算)	視写 速音読

イ 計算フェスタについて

計算フェスタの時期と内容

既習内容や計算力の定着を図るために、年3回(7月・12月・3月)、学期のまとめとして実施している。内容は、業者提供の小テスト作成ツールで作成した。内容を簡単に変更されるため、3回分作成し、予習・テスト・復習として活用した。また、特別支援学級の児童に合わせた内容で作成することもできた。合格点は、学級の実態に応じて担任が決め、合格したら合格証にシールを貼るようにした。合格してシールをもらい、喜んでいる児童の姿が見られた。1回で合格しなかった児童も再テストで合格できるように、努力していた。3回分のシールを集めることが、意欲につながっている。

時期	内容
7月	学期のまとめ
12月	(小テスト作成
3月	ツールで作成)

ウ 家庭学習について

自主学習においては、内容のモデルを提示し、取り組ませ方や表記上の統一(月日・問題・めあて・まとめ・ふり返し)について職員間でアイデアを共有した。

タブレットドリルを活用することで、意欲的に取り組む姿が見られる。教師は正答率を把握することができ、授業に生かすことができている。取り組ませる際は、間違いをそのままにせず、解き直しをするよう声をかけている。



まなびタイムの様子(低学年)



まなびタイムの様子(高学年)



計算フェスタの合格証

算数アンケート

() 年 名前 ()

算数の学習について、自分の考えにいちばん近いものを
○でかこんでください。

1 算数の勉強は すきですか。

すき どちらかというとすき どちらかというとすきではない すきではない

興味・関心

2 問題を理解しながら マーキングをしていますか。

いつもしている だいたいしている あまりしていない していない

ミッション把

3 問題を解決するための、見通しを立てることができていますか。

いつもできている だいたいできている あまりできていない できていない

ミッション解決

4 図・式・言葉などを使って、自分の考えを書いていますか。

いつも書いている だいたい書いている あまり書いていない 書いていない

アタック(個)

5 どの方法が、わかりやすいですか。(考えやすいですか。)

図・式・言葉を
書きながら考える 図・式・言葉を
見ながら考える 友だちに聞きながら
(質問して)考える 友だちといっしょに
(話し合っ)考える

アタック(自力)

6 わかったことを伝えることができますか。

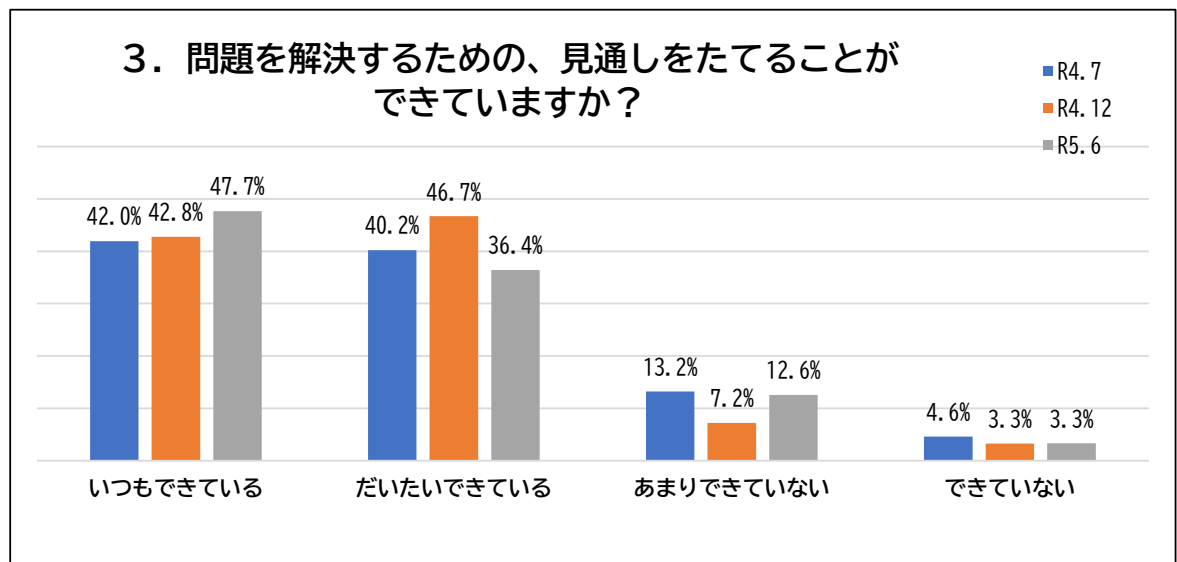
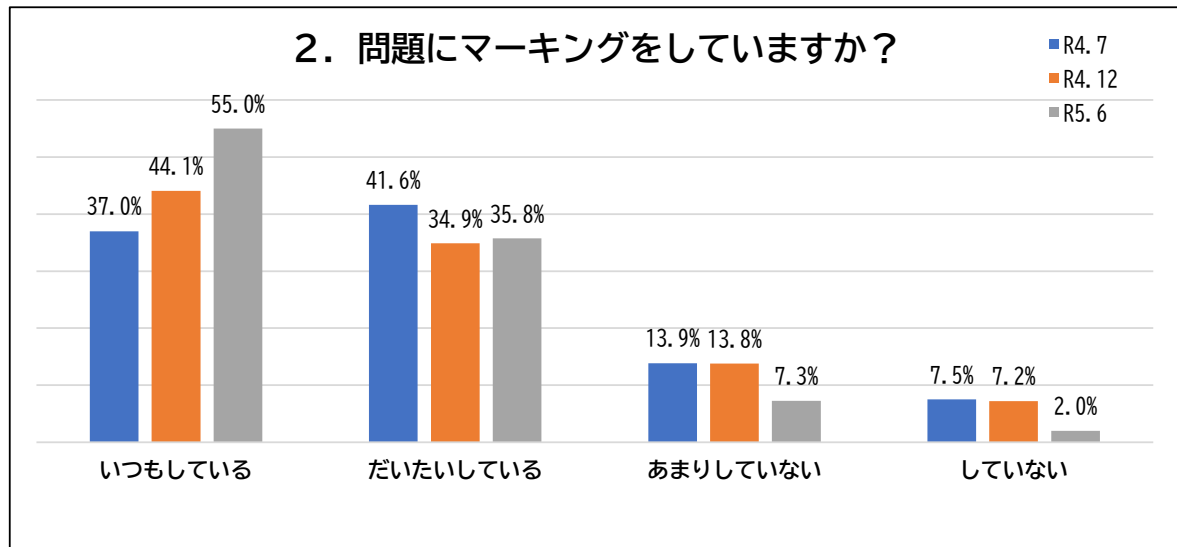
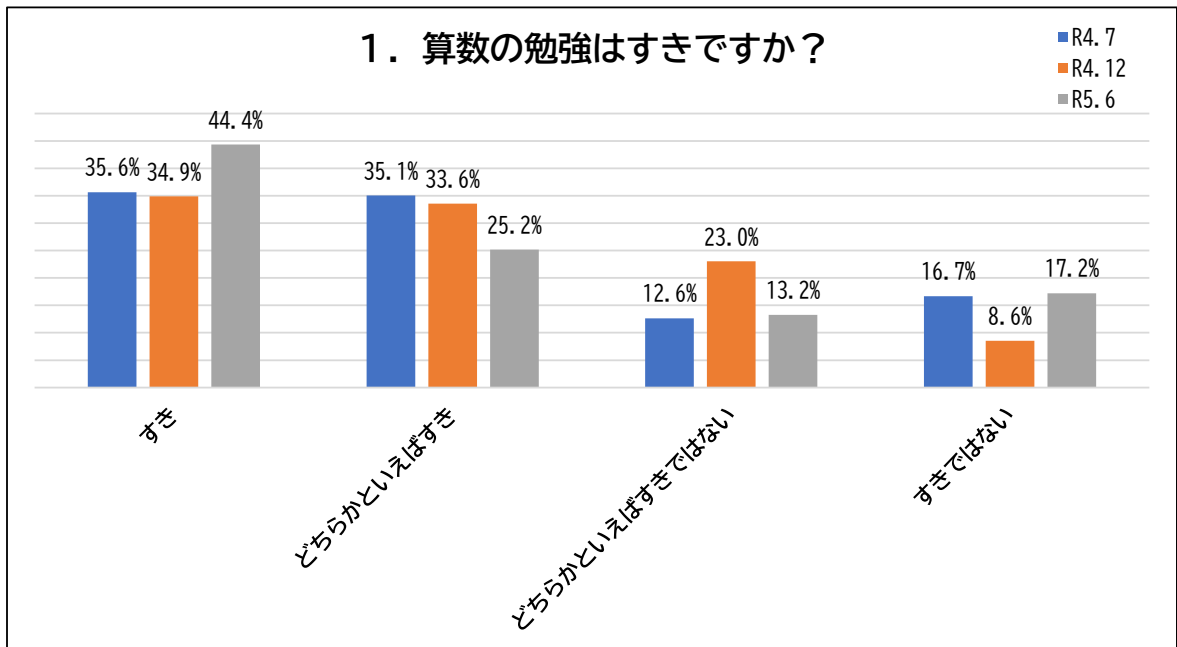
できる だいたいできる あまりできない できない

コンプリート

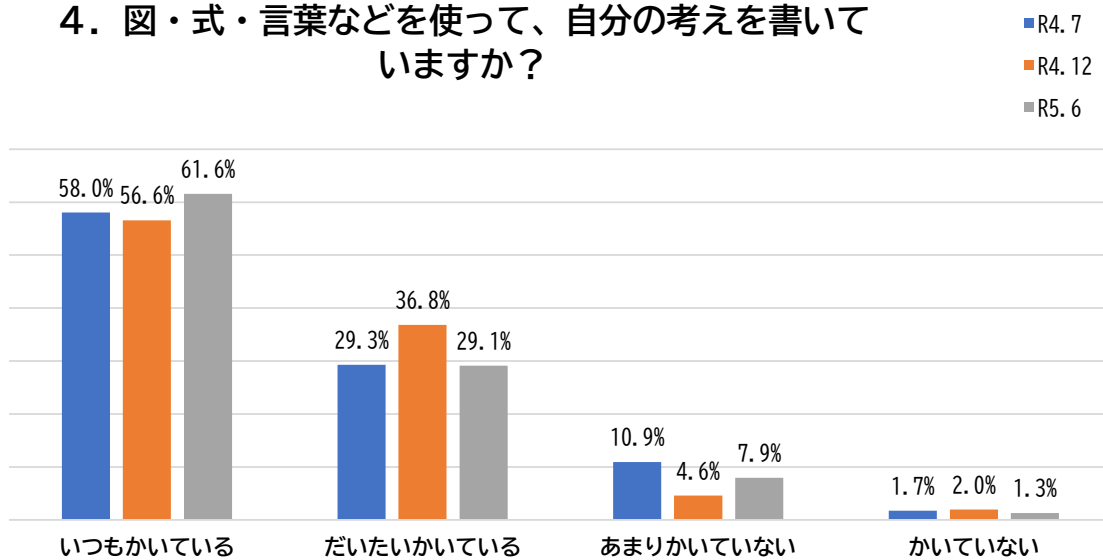
んなの前 でなくても、ペアやグループに伝えるでもOK。またはふり返りに書くことができれば○

7 タブレット学習をする時は、よく考えて取り組んでいますか。

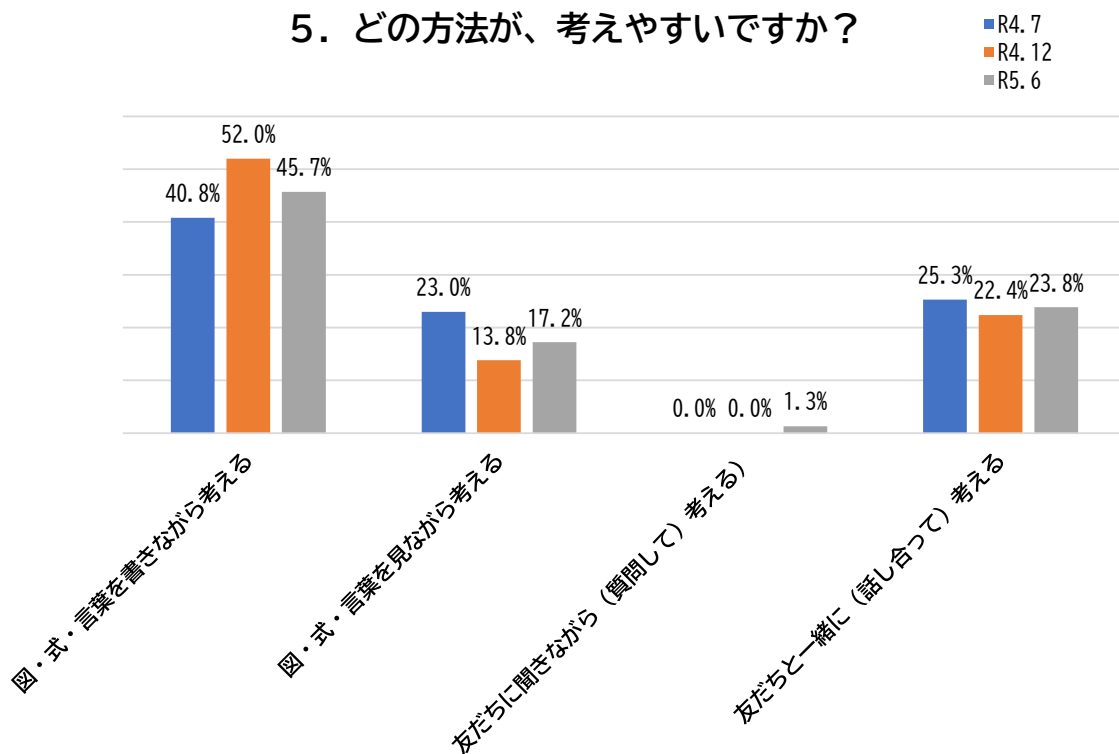
いつもよく考えている だいたいよく考えている あまりよく考えていない よく考えていない



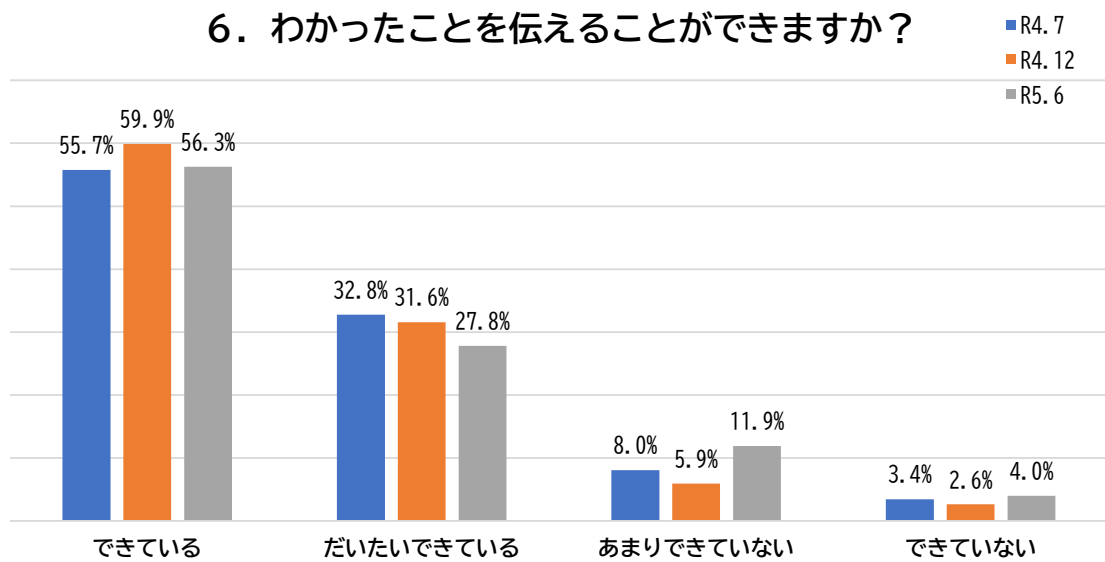
4. 図・式・言葉などを使って、自分の考えを書いていますか？



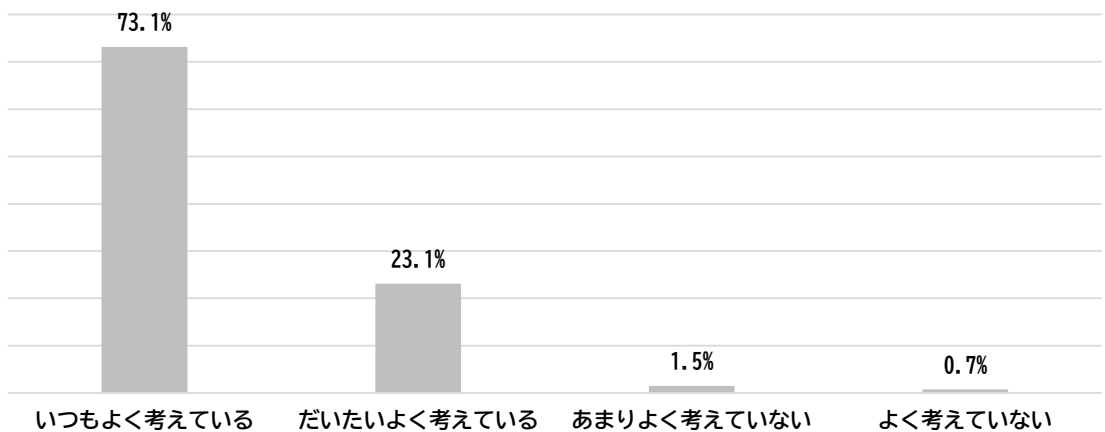
5. どの方法が、考えやすいですか？



6. わかったことを伝えることができますか？



7. タブレット学習をする時は、よく考えて取り組んでいますか。(R5.6のみ)



考察 (◎…良かった点、▲課題)

ミッションタイム

1 関心

- ◎今年度は、「算数の勉強は好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童を合わせると昨年とあまり変わらないが、「算数の勉強は好き」と回答した児童は増えている。
- ◎既習事項を使って考える問題に慣れ、少しずつ自分なりに考え方を見つけることができるようになってきた様子も見られる。
- ▲「どちらかといえば好きではない」「好きではない」と回答した児童が約 30%いる。
→既習内容が定着できていない。

2 マーキング

- ◎問題にマーキングしている児童は増えている傾向にある。
- ◎たし算・ひき算言葉を理解し、覚えることができるようになってきた。
- ◎こまめに声をかけてマーキングしているか確認している。
- ▲授業では、マーキングを行っているが、宿題やテストでのマーキングの定着には、ばらつきがある。
- ▲目的意識なくマーキングしている児童もいる。

3 見通し

- ◎問題文章から、たし算言葉やひき算言葉、数の増減を表す言葉を見つけることができるようになった。
- ◎学習内容が難しくなり、見通しの時間を多くとることで問題解決につながった。
- ◎やり方を複数提示し、自分に合ったやり方で取り組むよう呼び掛けた。

アタックタイム

1 ノート

- ◎式だけではなく、自分でブロック図や丸図を描いたり、絵に描いたりして答えを確かめることに慣れてきている。
- ◎ヒントカードを用意して、問題解決を促した。
- ◎図・式・言葉のどれか一つでもいいので、少しでも書くことを意識させた。
- ▲ヒントカードをもっと活用したいが、準備の時間がなかなかとれない。

2 考える方法

- ◎約半数の児童が図・式・言葉を書きながら考えている。
どの方法でもよいが、いつも同じやり方の児童に対しては、選択肢を与えることが必要（「〇〇を見ていいよ。」など）
- ◎約 20%の児童が友達と話し合っていると答えている。
ペア学習を取り入れることで、自分と友達の考えを比較したり、自分の考えに自信をもったりすることができる。

コンプリートタイム

- 1 ◎全体の場合で言えなくてもペアで言えたら OK とハードルを下げることで、安心感をもって伝えることができている。
- ◎ペア学習で説明したり話し合ったりする経験を通して、言葉で表現することへの抵抗感は少しずつ減ってきている。
- ▲練習問題で説明させる時間を取ることは、なかなか難しい。

タブレット学習

- ◎タブレット学習において、「よく考えて取り組んでいる」「だいたいよく考えている」と回答した児童が約 96%である。
▲選択問題なので、学習メモを残さず解答している児童もいて、集計結果とずれを感じる。間違いがあった際は、解き直しをするよう声かけが必要である。

今後の取組

- ミッションタイム…
- ・興味・関心を高めるために、問題提示の工夫をする。
 - ・授業中だけでなく、テストや宿題でもマーキングする習慣をつけるように声かけをする。
 - ・既習事項をもとに見通しをもたせたいが、定着していないため、基礎・基本の定着の時間をとる。
- アタックタイム…
- ・ヒントカードをもっと活用していく。
 - ・ペア学習を取り入れ、話し合いや説明の場を設け、言葉で表現させて、相手に伝えることに対して児童が自信を持つことができるようにする。
 - ・全体学びをする中で、友達の考えを聞くだけにとどまらず、教師が問いかけ直して、考えを整理させ理解を深めていく。
- コンプリートタイム…
- ・時間配分を工夫して、ふり返りの時間を確保する。
 - ・伝える時間がとれない場合は、挙手で理解度を示させたり、ペアでふり返りをさせたりして、なるべく全員意思表示の場を設ける。

(2) 学びの環境部

ア 算数コーナーについて

算数で学んだことを生かす操作活動(体験問題)を取り入れるなど工夫をして、1階と2階の中央廊下に『のごみっ子ランド』として設置している。それぞれ3つのレベル(簡単・普通・難しい)の算数に関するクイズ問題を用意した。意欲喚起のために、学年関係なく、どの問題を解いてもよいようにしており、毎月問題を替えるようにしている。児童は、新しいクイズが貼り出されると、すぐに問題に取り組み、算数に親しむことができている。また、年間を通して楽しみながら認知能力を高める操作活動を取り入れたタングラムコーナーは、1階の中央廊下に設置しており、友達と競いながら楽しむ児童の姿が見られた。



資料1 タングラムを操作する児童



資料2 算数コーナー(1階)



資料2 算数コーナー(2階)

イ 階段掲示について

1階から2階へ続く階段3カ所に、算数に関する問題を掲示している。今年度は、四字熟語や英単語なども取り入れ、いろいろな言葉や教科に関心がもてるようにした。九九を唱えながら階段を上がったたり、四字熟語など知っているものを見つたりしながら、階段を上る児童の姿が見られた。職員で分担して作成し、夏冬の年2回張り替えた。



資料3 西階段



資料4 東階段

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果と課題

(1) 授業づくり（各学習過程）における成果と課題

	成 果	課 題
ミ ッ シ ョ ン T	<ul style="list-style-type: none"> 問題文にマーキングをして必要な情報に着目する習慣が付いている。 マーキングを徹底したことで、低学年では、たし算言葉・ひき算言葉を覚えて理解できるようになってきた。 問題提示の工夫をしたことで、問題把握がしっかりできるようになり、めあてを明確にして、学習に取り組めるようになった。 既習事項の確認をしながら見通しをもたせ、自力解決の糸口にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数アンケートで算数が「好き」「どちらかというが好き」と答えた児童が減少した。意欲を高めるため、さらなる問題提示の工夫が必要。 マーキングの際に、数字や単位、たし算言葉やひき算言葉などだけでなく、意味が分かる言葉にもマーキングをさせるようにする。 見通しの段階で、時間の設定や問題解決のための手立ての提示がうまくいかないことがあった。どの程度見通しをクラス全体で共有するののかについて、これからも研究を重ねる必要がある。
ア タ ッ ク T	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカード等を準備することにより、少しでもかける児童が増えてきた。 式だけでなく図や絵をかくことに挑戦するようになってきた。 自力解決の時に友達の解き方を聞いたり、アドバイスをもらったりすることで安心感をもって考える姿が見られる。 発表ボードを活用したり、タブレット端末を使ったりしたことで、児童が意欲的に自分の考えを発表できるようになった。 全体での学び合いの場で、発表のさせ方の工夫をしたことで、一方的な発表にならず、意図を考えながら聞けるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決が難しい児童のために、ヒントカードを活用したり、T2が支援に入ったりしたいが、効果的な工夫が十分できていない。 学び合いのルールが崩れてしまうことがあるので、定期的に児童にルールの再確認をする必要がある。 どの方法で考えても良いが、いつも友達に聞くなど同じやり方ばかりではなく、ノートを見るなどの選択肢を示したりして、様々な解決方法に挑戦させたい。 T2の役割について、研究をすすめていきたい。
コ ン プ リ ー ト T	<ul style="list-style-type: none"> 低学年の時から、学習過程を大事にした授業を展開してきたことで、1年生も自分の言葉で振り返りが言えるようになった。 みんなの前で説明できなくても、ペアで言えたら OK とハードルを下げることで、安心感をもって伝えることができている。 振り返りの時間を設けることやその内容を教師が確認することは定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> コンプリートタイムを十分に設定できないことが多くあった。練習問題を解いた後に、一問だけでも解くポイントやコツを短く言う時間をとるなどして、自己表現させるようにしたい。 振り返りの文章の内容に個人差があるので、改めて振り返りの視点を共通理解させたい。

(2) 専門部活動における成果と課題

	成 果	課 題
学び部	<ul style="list-style-type: none">・年度当初に朝の時間の「学びタイム」のもちかたについて、全職員で共通理解したことで、わずかな時間でも確実に取り組むことができ、力をつけることができた。・学びタイム用のファイルを準備して、学びの足跡を残すことができた。・年間3回計算フェスタを企画して全学年取り組めるようにしたことで、基礎的内容の定着が図れるようになった。・算数アンケートを実施して、算数科に対する児童の実態を2年間にわたって把握することができた。	<ul style="list-style-type: none">・今年度新しく取り組んだ内容もあって、話し合いの時間が多く必要であった。来年度以降は役割分担をしながら効率的にすすめたい。
学びの環境部	<ul style="list-style-type: none">・学年ごとの算数コーナーを作ったり、階段掲示物を作ったりしたことで、児童が楽しんで算数に親しむことができた。	<ul style="list-style-type: none">・今後も定期的に掲示物の更新を行う。

2 来年度に向けて（授業改善）

「自ら学びを切り拓く」児童を育成するために、可能な限り全教育活動を通じて、職員全体で以下の学習過程における共通理解事項を徹底した研究を進めていきたい。

(1) ミッションタイム

生活場面と関連させた問題や、既習事項との違いに目を向けるような発問をして、意欲を高める。マーキングを元にわかっていること・聞かれていることを共通理解し、既習との比較から児童が思考する視点（見方・考え方）を焦点化する。そして、自ら「問い」を見つけ、解きたいと思う児童を育成する。

(2) アタックタイム

自力解決と交流活動を一体化し、児童が中心となって学ぶ自由度と場と時間を確保することで、児童同士の対話が主体的・対話的な学びに繋がるようにする。そのために、児童の様子を見取り、思考を整理・収束・方向づけることなど、教師の出番や発問を吟味する必要がある。また、児童が主体的・対話的に学ぶために、交流活動のルールを整えることや、分からない・できないと言える学級づくりに努める。

(3) コンプリートタイム

毎時間の授業の終わりに、振り返りの時間を必ず確保する。本時の問題でわかったことを練習問題で活用することができたか確認し、できた場合はそのポイントを児童同士で伝え合うことで、毎時間の授業を大切にしようとする態度を育成する。



鹿島市立能古見小学校

佐賀県鹿島市大字山浦甲 2246 番地

TEL (0954)63-3983

FAX(0954)63-3990

e-mail : nogomi-e@education.saga.jp

HP アドレス <https://www.education.saga.jp/hp/nogomi-e/>

